

京都

2024 autumn
No.47



ARCHITECTS

いのちと生活を支える環境デザイン

株式会社 内藤建築事務所

京都

2024年autumn号 VOL.47 令和6年10月15日発行

目次

トピックス 受賞報告 『一般財団法人照明学会東海支部 2023年完工施設優秀照明施設 東海支部長賞』
岐阜健康管理センター(美濃加茂本部)

実績紹介 安芸市立安芸中学校(高知県)
特別養護老人ホーム青香園(徳島県)

京の路地裏探訪 「一休寺」

表紙の写真 「上津屋橋(流れ橋)」

竣工日より(令和6年6月～令和6年8月竣工) 令和6年8月末現在

所在地	施設名称	構造・規模	延床面積 (㎡)	工期 (令和 年月)
茨城県	古河市斎場火葬棟 増築	RC(一部)-2	1,009	3.10～ 6. 6
広島県	医療法人社団 更生会 こころホスピタル草津(本館) 増築	S-9	17,738	4.10～ 6. 6
千葉県	地方独立行政法人 さんむ医療センター 新築	S(鉄骨)-4	16,762	4.11～ 6. 6
滋賀県	社会福祉法人近江笑生会 特別養護老人ホームなつめ 新築	RC-2	1,999	5. 1～ 6. 6
兵庫県	尼崎中央リハビリテーション病院 介護医療院トワイエ尼崎 新築	RC-4	10,243	5. 5～ 6. 8

前号 追加

所在地	施設名称	構造・規模	延床面積 (㎡)	工期 (令和 年月)
(追加) 奈良県	医療法人中川会 飛鳥病院 増築	S-3/1	7,523 (既設 3,972)	3. 9～ 6. 5



鶴屋吉信さんの「栗まろ」

受賞報告

照明施設の設備手法などにおいて優秀であり東海地方の代表的施設として表彰されました。

一般財団法人照明学会東海支部

「2023年完工施設優秀照明施設 東海支部長賞」を受賞しました。

岐阜健康管理センター（美濃加茂本部）

■建築概要

所在地：岐阜県美濃加茂市西町
 建築主：一般財団法人岐阜健康管理センター
 敷地面積：10,881㎡
 延床面積：3,915㎡
 構造規模：S造 3F
 用途：健診センター、クリニック



「行燈あかりの美濃手すき和紙アートウォール」

■施設紹介

岐阜健康管理センター（美濃加茂本部）は、60周年をむかえるにあたり巡回健診機能を備えたクリニック併設型の健診センターとして移転新築にて計画されました。美濃加茂の雄大な山々の風景に溶け込み水平に伸びやかな健康のシンボルをイメージした大庇が全方位にまわる特徴的な外観で利用者をやさしく出迎えます。照明のシミュレーションを重ね、昼夜で異なる表情を魅せる光のオブジェを実現しました。

■外観

外周部の大庇先端に、建築になじむ細い断面のライン照明を用いました。ルーバー照明は、器具の存在感を抑えるグレアレスダウンライトを採用し、建物の表情をやさしく光が包む計画としました。

■内観

エントランスホールは、伝統的な魅力をもつ美濃和紙を取り入れた「行燈あかりの美濃手すき和紙アートウォール」を中心に、光溢れたホスピタリティある空間としました。視覚的にもあたたかく魅力的な空間を提供し、利用者に安全で快適な環境を実現しました。



学びと成長と交流の学校づくり

◆ 建築概要

所在地：高知県安芸市僧津字高堂
 建築主：安芸市
 敷地面積：43,375㎡
 延床面積：10,801㎡
 構造規模：RC造（一部S造）2F
 竣工：令和6年2月



朝日と共に生徒を迎えるホール

敷地は歴史と文化の香るまち、高知県安芸市に位置します。本計画は市内の市立中学校2校を安全・安心な津波浸水区域外に移転・統合すると同時に、学習環境の充実・学校の魅力向上を図りながら誰もが行きたい、行かせたい学校を整備することが目的とされました。そこで、新しいまち・歴史をつくる学校を「学びと成長と交流」をコンセプトとして計画しました。中心に中庭を配置した回廊型の校舎とし、ホールやメディアセンター、多目的スペースをシームレスに設け、生徒の活発な活動や交流を促す工夫を行っています。特にメディアセンターはホールの一角にオープンに配置しました。これはメディアセンターを「学校の心臓」と位置づけ、生徒の日常的な動線にからめて計画することで、生徒が本に親しむきっかけづくりを行うことを意図しております。また、アクティブラーニングが生徒の精神的負荷が大きいことを考慮し、メディアセンターに多様な空間演出（窓際・階段下・吹抜）を行い、自分の居場所づくりができ、かつ職員室から見守れる場所とすることで、第二の保健室のような拠り所となる空間としました。

学習環境の充実のため、クラスルームと一体となる多目的スペースやグループ分け学習が可能な少人数クラスルームを設け、教職員の授業の創意工夫に対応できるフレキシブルな空間づくりを行いました。なおクラスルームにはプロジェクター搭載型の電子白板を配置し、ICTを活用した楽しく・効果的な学習が可能です。計画地周辺には国の重要伝統的建造物群保存地区に指定される武家屋敷群が広がるため、地域にふさわしい、地域の宝となる学校を目指し、安芸瓦を使用した切妻屋根の校舎とし、ランドマークとなる時計台を設けました。地域らしさを全面に打ち出した外観は生徒だけではなく地域全体で新しい学校づくりを行う機運の醸成に寄与しました。また、計画中に敷地内で発見された国内最大級の井戸の遺跡を保存するため、校舎・屋内運動場・プール棟の中央に広場を計画しました。遺跡位置をランドスケープで表現し、地域の歴史を伝える場所とすることで、地域に親しまれる学校を象徴する空間となりました。



南西面鳥瞰



南面外観



広場



クラスルーム



理科室



多目的スペース



アリーナ



実績紹介（特別養護老人ホーム 青香園）

豊かに生活を楽しみ、彩りあふれる暮らしを実現する福祉施設

◆ 建築概要

所在地：徳島県徳島市川内町
 建築主：社会福祉法人青香福祉会
 用途：特別養護老人ホーム（50名）
 短期入所生活介護施設（24名）
 敷地面積：6,255㎡
 延床面積：3,028㎡
 構造規模：S造4F
 竣工：令和4年6月

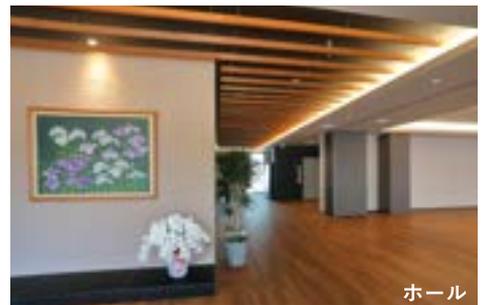


北面外観

社会福祉法人青香福祉会は徳島市において、特養・ショートステイ・グループホーム・デイサービス・ホームヘルプ事業・在宅介護支援・居宅介護支援等の地域に求められる質の高い社会福祉事業を展開しており、本計画は老朽化していた特別養護老人ホーム青香園の建替への計画です。青香福祉会様の常に利用者・ご家族に寄り添った姿勢に深く感銘を受け、その想いを設計に取り込み、カタチにすることを目指しました。

1階に利用者が家族との楽しい催し物が企画できる多目的ホール、2階にショートステイ（24床）、3階・4階に特別養護老人ホーム（50床）を配置しております。利用者一人ひとりの需要にあった、寄り添ったケアが行なえるように個室・2居室・4居室の居室をミックスした従来型特養の計画としました。各階平面の中心に食堂・機能訓練室を広く確保することで、利用者のリビング空間を創出し、家庭的な雰囲気となるように考慮しました。スタッフステーションはオープンカウンターの設えとし、利用者の生活を見守りやすく、会話の生まれる構成としました。浴室は寝浴・ADL入浴・リフト付個浴と機能の違う3つの浴室を計画し、利用者が自力を活かしつつ、スタッフがそれぞれに必要なサポートが可能な計画とし、毎日の暮らしを楽しむ工夫を行いました。

外装・内装デザインでは「豊かに生活を楽しみ、彩りあふれる暮らし」をコンセプトに明るくカラフルな色彩を取り入れながら、重厚感と華やかさを両立するデザインとしました。2階ショートステイのフロア名を「まつり」とし、赤を中心としたコーディネート、3階特養のフロア名を「みなも」とし、青を中心としたコーディネート、4階特養のフロア名を「わかば」とし、緑を中心としたコーディネートを行いました。利用者に自分の住み家としての愛着をもって頂き、他のフロアに旅行した際の変化を楽しんで頂きたいと考えました。



ホール



総合受付



多目的ホール



2階ショートステイ（まつり）

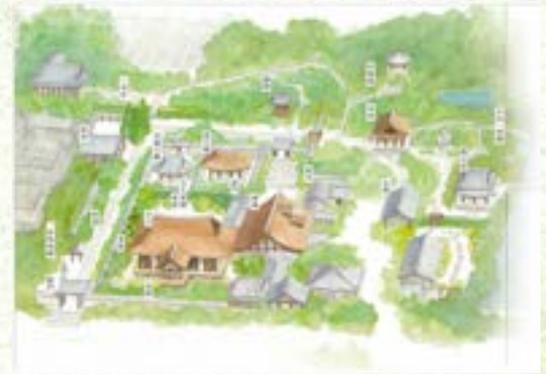


3階特養（みなも）



4階特養（わかば）

一休寺 Ikkyu-ji Temple



宗純王廟（一休禅師の墓）

一休寺案内図（拝観パンフレットより）

■一休宗純 室町時代を生き、臨済宗大徳寺派の禅僧。京都生まれで幼名は千菊丸。後小松天皇あるいは足利義満の血を引くともいわれています。6歳で京都の安国寺に入門し、周建の名前を授かりました。早くから詩才に優れ、13歳で作った漢詩「長門春草」、15歳で作った「春衣宿花」は洛中でも評判になりました。文明6（1474）年、大徳寺の住持を任せられましたが、寺には住まず、草庵・酬恩庵を結び、その後も天皇に親しく接せられ、民衆にも慕われました。文明13（1481）年、酬恩庵（京都府京田辺市）にて享年88歳で亡くなりました。江戸時代には彼をモデルとした「一休咄」に代表される頓知咄（とんちばなし）が生まれ、現在でも親しまれています。宗純は戒名で、一休は道号です。



方丈



方丈庭園南庭



方丈庭園北庭



■名言
門松は冥土の旅の一里塚めでたくも
ありめでたくもなし

世の中は起きて箱して（糞して）寝て
食って後は死ぬるを待つばかりなり

『上津屋橋（流れ橋）』



上津屋橋（こうづやばし）は、昭和二十八（一九五三）年三月に架設され、昭和三十四（一九五九）年に一般府道八幡城陽線として認定され、現在に至っています。上津屋橋のある地区は、江戸時代から明治の中頃まで木津川を挟んで上津屋村と呼ばれ、八幡の石清水八幡宮に参拝する人たちも渡し船を利用して木津川を往来していました。しかし渡し船では不便と、地元の強い要望で上津屋橋が完成しました。流れ橋の構造で作られた上津屋橋は、全長356・5メートル、幅3・3メートル、歩行者と自転車・二輪車が通行可能です。この橋の最大の特徴は、大雨で川が増水すると橋桁が水面に浮き、筏のように流れることで水の圧力を受け流し、橋全体の崩壊を防ぎます。橋桁と橋板はワイヤーロープでしっかりと橋脚に繋がれているため流されません。ロープを引き上げ橋脚の上に戻すことができます。

上津屋橋は、日本の原風景を思わせる木造の風情ある姿から、テレビや映画の時代劇などの撮影で数多く使われています。

流れ橋と周辺の浜茶の茶園は、京都府景観資産に登録され、さらに「日本茶八〇〇年の歴史散歩」の名称で文化庁の日本遺産にも認定されています。

一休さんではありませんが、怖くて端（橋）は歩けません。



内藤建築事務所

■本社

〒606-8202
京都市左京区田中大堰町182
TEL:075-781-4111/FAX:075-701-2423
E-Mail:kyoto@naito-archi.co.jp

■東京本社

〒104-0031
東京都中央区京橋2-14-1 兼松ビルディング6階
TEL:03-3528-6345/FAX:03-3528-6349
E-Mail:tokyo@naito-archi.co.jp

■本社



■東京本社



■東京事務所

〒104-0031
東京都中央区京橋2-14-1 兼松ビルディング6階
TEL:03-3528-6345/FAX:03-3528-6349
E-Mail:tokyo@naito-archi.co.jp

■名古屋事務所

〒460-0003
名古屋市中区錦1-7-32 名古屋Sビル5階
TEL:052-212-4645/FAX:052-212-4051
E-Mail:nagoya@naito-archi.co.jp

■大阪事務所

〒541-0045
大阪市中央区道修町1-4-6 ミフネ道修町ビル5階
TEL:06-6203-7110/FAX:06-6203-7122
E-Mail:osaka@naito-archi.co.jp

■広島事務所

〒732-0052
広島市東区光町1-13-20 デア・光町3階
TEL:082-568-5544/FAX:082-568-5545
E-Mail:hiroshima@naito-archi.co.jp

■九州事務所

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前1-14-16 博多駅前センタービル4階
TEL:092-441-6836/FAX:092-451-4860
E-Mail:kyushu@naito-archi.co.jp

■静岡事務所

〒420-0859
静岡市葵区栄町2-5 アークビル5階
TEL:054-253-6347/FAX:054-255-7859

■奈良事務所

〒634-0078
奈良県橿原市八木町1-7-3 橿原ビル4階
TEL:0744-29-0322/FAX:0744-25-7159

■神戸事務所

〒650-0012
神戸市中央区北長狭通5-5-12兵庫県土地改良会館南山手ビル1階
TEL:078-367-6255/FAX:078-367-6256

■四国事務所

〒781-0806
高知市知寄町2-2-41 知寄町マンション2階
TEL:088-883-4280/FAX:088-883-4272

■南九州事務所

〒892-0877
鹿児島市吉野4-3-17
TEL:099-294-0311/FAX:099-294-0311

■沖縄事務所

〒905-0011
沖縄県名護市宮里452-1丸平アパートⅢ102号
TEL:080-1745-2194

■長野営業所

〒381-0043
長野市吉田3-14-17
TEL:026-241-0590/FAX:026-241-1245

■福井営業所

〒918-8112
福井市下馬2-812
TEL:0776-43-6027/FAX:0776-43-6029

■和歌山営業所

〒640-8354
和歌山市北ノ新地東ノ丁1
TEL:073-435-6080/FAX:073-435-6101

■長崎営業所

〒852-8023
長崎市若草町13-3
TEL:095-844-5151/FAX:095-844-5151

■宮崎営業所

〒886-0006
宮崎県小林市北西方3000-1
TEL:0984-27-2485